



No.41

三商同窓会報

発行所

東京都江東区
越中島3-3-1

東京都立第三商業
高等学校同窓会

編集 同窓会事務局
電話 (3641)0380



ご挨拶

学校長 青木 孝雄

さわやかな夏が続く今日この頃、卒業生の皆様には、益々ご健勝にて活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より母校の教育活動にご支援・ご協力頂きまして、大変有り難く心より厚く御礼申し上げます。

平成十三年度は無事終了し、新たに平成十四年度の様々な課題に取り組んでいます。今年度は教頭先生をはじめ、十名の先生方、七名の事務職の方々を迎え出発しました。前教頭の相川先生は、平成十四年三月三十一日をもってご退職されました。長い間大変ご苦労様でした。本年度からは、池袋商業高校から篠田教頭先生を迎え、本校の先生方の平均年齢は、だいぶ若返り、四十一歳となりました。

校と変わリません。多様な学力の生徒が入学してきており、先生方はその対応に大変苦労しています。現在の社会は価値観が多様化しており、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、変化の激しい社会を強くたくましく生きていけるよう成長してほしいものです。

先日財団法人「三商会」の総会が本校で開催されました。理事を始め、監査委員、評議委員の方々が多数参加され平成十三年度の報告、十四年度の計画が無事承認されました。奨学金事業は同窓会の諸先輩のお陰で、現在高校生二十五名、大学生四名に奨学金を給付しております。大変感謝されています。受給生は皆一生懸命に励んでおります。

「初級コンピュータ」「情報処理」の公開講座、このような活動を通して本校の特色化を図っています。平成十四年度から週完全五日制が導入されました。週休日の土、日曜日の活動が生徒達には大切なこととなります。本校では特別な取り組みは計画していませんが、検定間近になると、先生方は土曜日等を活用して、検定のための補習を実施しています。この補習によって生徒達は、より多くの種類の、より上級の検定に合格し、自信をつけています。今年度も生徒が検定合格に大いにチャレンジしてほしいと思います。

アンケート回答数は生徒、五百一名、保護者は三百三十四名が貴重な解答をくれました。その中で、生徒は、本校の様々な教育活動に対して、おおむね満足して、また保護者の評価では、本校の教育に高い評価を頂きました。例えば「生徒は、明るく学校生活を送っていますか」の問に対して、当てはまると回答したのは、教職員六十七%、保護者は八十四%、生徒五十二%であった。他の質問に対しても大体このような傾向でした。また保護者の自由意見を紹介しますと、「商業科らしく、資格を取る時間もたくさんあるし、いい先生もいらつしやるようで、恵まれていると思いますが、子供達がどう考えているかによるでしょう、男子がもう少し活気につながると思います」、「教科により、また先生により、わかりやすい授業とそうでない授業がある」、「生活指導をもっと徹底してやってほしい」、「遅刻指導など熱心に取り組んでいただきありがとうございます。子供の変化を個別に知らせてもらい、大変助かっています。できるだけ学校にかかわりを持ちたいと思いますが、なかなか機会がありません」、「部活に関しては、入部しなくてもすぐやめてしまうお子さんが多いようで人数も少なく、やりがいがないようです。もっと夢中になれるよう工夫が必要なのではないか」と思っています、その他多くの意見を頂き本年度学校の運営に生かしていきたいと考えています。

本校では、平成十五年度の新しい学習指導要領の本格実施に伴い、新しい教育課程の編成に取り組んでいます。生徒が授業に興味や関心を持ち、意欲的に自ら取り組むシステムづくりに教職員が知恵を絞っています。体験的授業の増加、インターネットの活用、インターシッパの導入、生徒会主催のボランティア活動の実施、生徒主体の各種委員会活動、生徒を中心とした実行委員会形式の行事の実施、コンピュータを活用した情報教育の実施、地域の方々を外務委員とした学校運営連絡協議会の実施、テニスコート・体育館の施設解放、

先日ある週刊誌に「都立高校は変わるか」という特集が掲載されました。ここ二、三年都立高校の改革は大変な早さで、質的な変化をしています。第一次改革、代二次改革、が発表され今年十一月には第三次計画が発表されます。「進学を重視した単位制高校」「平成十五年からは学区制の全面撤廃」、都立高校の校長に民間から今までに四名の方が任用されている。進学重点校では教員を全都から募り、進学指導の出来る教員を集めている。学校が様々な個性化・特色化を図りその存在をアピールしてゆかなければならない。これからは応募者が少ない学校は、つぶれる可能性が出てくる。各学校は、時代のニーズに添えて学校の存続を図っていかねばならない事になります。

これは、学校運営連絡協議会の一環として、教員、生徒、外部委員、保護者から本校の教育についての評価をお願いしました。

最後に同窓生の皆様のご健勝、ご活躍を心からご期待申し上げます。

平成十三年度は無事終了し、新たに平成十四年度の様々な課題に取り組んでいます。今年度は教頭先生をはじめ、十名の先生方、七名の事務職の方々を迎え出発しました。前教頭の相川先生は、平成十四年三月三十一日をもってご退職されました。長い間大変ご苦労様でした。本年度からは、池袋商業高校から篠田教頭先生を迎え、本校の先生方の平均年齢は、だいぶ若返り、四十一歳となりました。

本校では、平成十五年度の新しい学習指導要領の本格実施に伴い、新しい教育課程の編成に取り組んでいます。生徒が授業に興味や関心を持ち、意欲的に自ら取り組むシステムづくりに教職員が知恵を絞っています。体験的授業の増加、インターネットの活用、インターシッパの導入、生徒会主催のボランティア活動の実施、生徒主体の各種委員会活動、生徒を中心とした実行委員会形式の行事の実施、コンピュータを活用した情報教育の実施、地域の方々を外務委員とした学校運営連絡協議会の実施、テニスコート・体育館の施設解放、

先日ある週刊誌に「都立高校は変わるか」という特集が掲載されました。ここ二、三年都立高校の改革は大変な早さで、質的な変化をしています。第一次改革、代二次改革、が発表され今年十一月には第三次計画が発表されます。「進学を重視した単位制高校」「平成十五年からは学区制の全面撤廃」、都立高校の校長に民間から今までに四名の方が任用されている。進学重点校では教員を全都から募り、進学指導の出来る教員を集めている。学校が様々な個性化・特色化を図りその存在をアピールしてゆかなければならない。これからは応募者が少ない学校は、つぶれる可能性が出てくる。各学校は、時代のニーズに添えて学校の存続を図っていかねばならない事になります。

これは、学校運営連絡協議会の一環として、教員、生徒、外部委員、保護者から本校の教育についての評価をお願いしました。

最後に同窓生の皆様のご健勝、ご活躍を心からご期待申し上げます。



同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会の活動におきましては、格別のご配慮いただき誠に有難く存じます。

さて、六月十三日(木)に評議委員会が行われ、下記の通り決議されましたので、ご報告させていただきます。

今後とも同窓会への温かいご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



会長 大嶽 清

評議委員会報告

一、理事改選について(敬称略)

新理事

鬼澤(二十五期) 田端(二十八期) 土谷(五十期)

退任

小川(九期) 森(十一期) 藤波(四十七期)

二、運営協賛金(寄付金)について

お願いを各期にする。
別会計処理をやめ、一般会計へ入れる。

三、今年度の予定

(一) 総 会

日 時 十一月三日(日) 午後
場 所 ティアラ こうとう
会 費 五千円
なお、六十八・六十九期、母校教職員は招待とする。

(二) 校 歌 祭

日 時 十月五日(土) 二時五分出演予定
場 所 日比谷公会堂
集 合 午後一時三十分
(公会堂前よりハーサルを行います)
服 装 紺系(ネクタイ着用)
*当日反省会の予定あり

(三) 同窓会報

発 行 七月下旬予定
各期に、三十部配布いたします。
三十部以上必要の期方は、事務局までご連絡下さい。

平成14年 離任教職員一覧表

職 名	担 当	氏 名	転 出 先	赴 任 在 籍 期 間
教 諭	教 頭	相川 勲彦	都 研	平成10年4月 4年
教 諭	国 語	小林 正人	淵 江	平成7年4月 7年
教 諭	地 理	川鳥 淳子	向 丘	平成3年4月 11年
教 諭	数 学	木村 昌弘	墨 田 工 業	平成7年4月 7年
教 諭	物 理	深谷 俊成	世 田 谷 泉	平成1年4月 13年
教 諭	保健体育	山崎 正美小	足 立 西	平成6年4月 8年
教 諭	音 楽	松 一 功	紅 葉 川	平成9年4月 5年
教 諭	実習助手	新堀 智恵子	市ヶ谷 商業	平成7年4月 7年
教 諭	商 業	木村 寿部留	向 島 商業	平成10年4月 4年
教 諭	商 業	藤波 喜代美	赤 羽 商業	平成6年4月 8年
教 諭	商 業	原田 英晴	退 職	平成9年4月 5年
事 務	主 事	塚 本 眞一	墨 田 区 立 花 中	平成9年4月 5年
事 務	主 事	吉野 朱 恵	紅 葉 川	平成12年4月 2年
事 務	主 事	岩下 順子	北 園	平成9年4月 5年
事 務	嘱 託 員	樋口 ゆき子	退 職	平成13年4月 5月
用 務	主 事	佐野 一 恵	葛 西 工 業	平成8年4月 6年
用 務	嘱 託 員	福 島 悠 高	退 職	平成9年4月 5年

【運営協賛金(寄付金)一覧】

2002.3.25現在

	平成12年	平成13年	備考欄
4 期	¥50,000	¥20,000	
5 期	20,000		
6 期	60,000		同期会を解散予定
7 期	20,000	20,000	
8 期	20,000		
9 期	50,000	10,000	
10期	15,000		
11期	15,000		
12期	15,000	15,000	
13期	10,000		
14期	60,000		1年2万円×3年分
15期		20,000	
16期	20,000	20,000	
17期	20,000	100,000	
19期	15,000	20,000	
20期	15,000	15,000	
21期	15,000	15,000	
22期	15,000	30,000	
24期	20,000	20,000	
25期	20,000	20,000	
26期	15,000	15,000	
28期	15,000	15,000	
29期	20,000	10,000	
34期	30,000	10,000	
	¥555,000	¥375,000	

たより



三商、印象： 相川 勲彦

乾いた砂地に曲線のない白い幾何学的な建物が何棟か遠方に見える風景。木々の緑はあることにはあるが、乾いた砂地と白い幾何学的な建物というその印象があまりにも強過ぎて、視界の中に入らない。

人は一人としていない。しかし周りはせわしげにトラックとか、乗用車とか、バイクなどといった生きたものを感じさせない人工的に造られた物が飛び回っている。この対象、これがさらにその空間に一人いない感じを強く抱かせる。

キリコの絵……。この喧嘩の中にキリコの絵とは……。場違いでありながらも、しかし厳然としてキリコの絵の相貌を持って眼前に広がる空間。

どうして一人一人いないのだ。それが似つかわしいからか。白い砂地と白亜の建物だけの空間には何もあつてはならないのだ。

茶色の石畳には、人はいても一人ではない。ユトリ口の絵のように、画家が絵の具のチューブから画布に直接塗りつけたような人物。同色の遠くの白い建物まで続いている

る長い石畳には、歩いているのか、絵画そのままに、佇みつづける一人の人物だけが似つかわしい。動きなどまったく必要ない。

運河は水温によってその色を変化させる。水温が低いほどその彩りを際立たせる。夏はもちろん彩りも何もない。臭いのないどぶの水のようである。秋になると彩りを増して行く。この頃は、秋になつてもいつまでも暑いため、夏のままの色を呈していることが多い。その色彩で季節を感じるとは、樹木のようにである。

川の水は、天気によって色を変える。よく晴れた日は、その青空そのままに真っ青の色になつて目を楽しませてくれる。曇りの日は濁った色に変化する。別に上流で雨が降り濁流が流れ込んでくるからではない。もちろん大雨が降り、濁流が流れ込むと茶色に変わる。運河は、冬の日には雲天の日でも、色鮮やかな海水を湛えている。



原田 英晴

第三商業高校には嘱託員勤務として、五年間お世話になりました。教科は商業で三年生の商業法規を担当しました。この科目は、日常

の生活の中で欠くことのできない知識が多く、一般教養に必要な知識でもあると思います。

最近広い意味の商業法規に関連する番組がテレビで取り上げられており、法律をより身近に考えるようになってきたのではないかと思います。

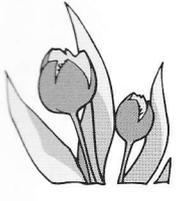
第三商業の生徒は素直な生徒が多く、授業を楽しくすることができました。また職場でのソフトボールの試合にも参加したことを懐かしく思います。

通勤では門前仲町から学校までの往復雨降り以外は健康のために主に歩きました。三商に着くまでに色々な景観が目にはいり、楽しく通勤することができました。

趣味として少し写真を撮つていたので、行き帰りの時間のある時には町並みとか花を撮つたりもしました。校舎の運河側に大きな高いマンションが二棟建つておりますが、建設中の情景も十数枚撮つています。

五年の間に学校の周囲の景観も大きく変わりました。春には校門の桜、大横川淵の桜など大変きれいで今でも記憶に残っています。教職の最後の五年間をこの伝統のある第三商業で終わることができたことを感謝しております。

最後に第三商業高校がますます発展されることを期待しております。



深谷 俊成

十三年もの間三商に在任させてもらいました。三商に着任した頃は制服が今のものとは違い、黒のイメージがありました。スカートは丈も長く、思い起こすとずいぶん変わったなと思つていきます。

異動先では、定時・三部制・総合学科の単位制で二期制という三商とは全く異なる学校で、勝手が違うことも多くあります。異動先のチャイムが、普通のチャイムで、今までの校歌のチャイムでなく、今までの校歌のチャイムでなく、大変な感じがしました。また、教室も空調がなく、暑い中を奮闘して授業をやっています。(夏を過ぎたら痩せるのではないかと思っています。)

門前仲町では月三回縁日があったのに、着任先の近辺ではそのようなこともなく寂しい思いをします。勤務時間の関係もありなかなか平日には行けないのですが、たまに問仲の店に行つたりして三商を思い出しています。もし見かけたならば、声をかけてもらえると大変うれしく思いますのでよろしくお願いします。



三商に赴任して 藤波喜代美

母校で教鞭を執ることになり、複雑な思いで赴任しました。それは、在籍していたころと変わった点が多かつたからです。私が生徒で在籍した校舎は、時計台があり重鎮な趣の旧校舎でとても気に入っていました。その校舎の最後の卒業生と言われ、よけい校舎に思い入れがあつたのかもしれません。しかし、赴任したときは、新校舎となり、まったく違う学校にきたような気がして、母校だといわれてもピンときませんでした。また、制服が違つていたことも一因かもしれません。しかし、三商生の明るさや、やさしさは昔と変わつていなかったたので、母校に赴任してよかったと思つてきました。

私の教育目標は、「努力」で、生徒に目標を高くもち、何事にも前向きに努力することを求めてきました。けれども、教育は一朝一夕に効果があるものではありません。三年という期間をかけて取り組むことにより、成長していく姿を見るのが一番の楽しみでした。生徒も一生懸命それに報いてくれたと思います。

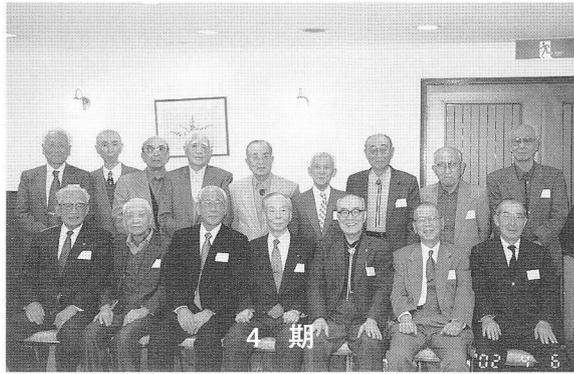
いま八年が経ち、振り返ると楽しい教員生活だったなあという思いでいっぱいです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

同期会

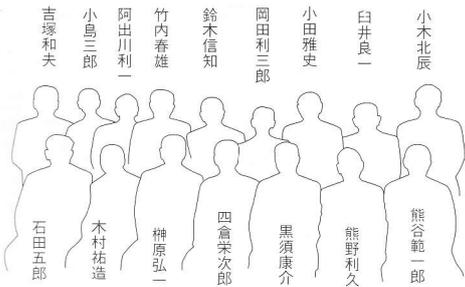
四期会

黒須康介

四月六日新丸ビル地下「ホールスター」にて四期生会を開催十六名参加。三時間後来年の再会を約して散会。



4期



小北辰 熊合範一郎 白井良一 熊野利久 小田雅史 黒須康介 岡田利三郎 四倉栄次郎 鈴木信知 榎原弘一 竹内春雄 阿出川利一 小島三郎 木村祐造 吉塚和夫 石田五郎

七期会

村田邦夫

第二十六回の懇親会を昨年十月

に開催の予定であったが、私の心臓疾患により延期、昨秋ペースメーカーの植込み手術により日常生活には一応差支え無くなったので、去る四月十九日(第三金曜日)開会時間を従来の十六時からラッシュアワーを避け、明るいうちに帰宅できる様に十三時開会として開催した。当初二十六名の予定であったが、急用等で二十三名となった。元気な八十男がこれだけ集まると壮観であった。当日の出席者は浅川喜平・荒井貞次・市村陽・稲村繁・鬼頭誠一・車重三・黒田喜一郎・小平安雄・柴田定一・寺田光逸・外川博・横山隆一・服部博吉・原田伸一・福田健一・松井一郎・宮城貞一郎・丸山誠一・村田恒太郎・山口昌雄・吉井瑞雄・吉田光世と私村田邦夫であった。

定刻に全員が集まり記念写真の後、久方振りに出席した吉田君の乾杯と全員の食前感謝の詞で懇親会の幕を開けた。全員が八十歳を越えたが、十代史の在校当時に戻り、時の過ぎるのを忘れて欲談に花を咲かせ、予定の十五時を過ぎて、例年通り小平君の一本締めと校歌の斉唱で閉会した。今後を如何にするかについて予めアンケートを取った処、出席予定者二十五名(除く村田)のうち十九名、欠席予定者回答十九名のうち四名が来春も従来通り懇親会

開催を、欠席予定者のうち十一名が情報交換を希望して居られるので、私の身体次第ではあるが、一応来年四月十八日(第三金曜日)に本年通り開催させて頂く事で段取りを進める事とした。



7期

十期会

荻野文雄

平成十四年の定期例会は爽やかな好天の五月二十四日(金)正午、同期の古田泰治郎君経営の神田淡路町の割烹「萬代」で開催した。来賓として笹岡恒三先生のご臨席を頂いた。この界隈は古い東京の味を伝え

る食べ物屋が軒を列ねて落ち着いた雰囲気を漂わしている。此処には台地の大学や病院などの威圧するような高層ビルはなく、また川向こうの秋葉原電気街の喧噪もない。大正生まれのオールドボーイが親睦する場所に相応しい。畳敷きの大広間や仲居さんの和服姿にも風情があつて心が安らぐ。

荻野が司会し、まず昨年十一月二日に心不全のため九十二歳で逝去された井上速雄先生と、同期岩崎茂君のご冥福を祈つて黙祷。

次いで新旧世話人代表の木村一雄君と古川恵一君が挨拶。福田猛君から事務局報告。

①昭和二十七年発足の「十期会」は、世話人の高齢化と出席者の減少傾向によって役割は終わったものと判断し、来年五月の例会をもって解散する。②平成四年創刊の「十期会報」は、会員の原稿が集まらず執筆者が固定化したので、次号と次次号をもって廃刊する。③清田榮一先生募参会、本年十月五日(第九回)、来年十月(最終回)を全うしてから現世話人の任を解く。

米寿を迎えられた笹岡先生に御祝品を贈呈。先生から謝辞と次のようなご挨拶があつた。

昭和十一年の二・二六事件のときは東大生、偶々数学科の試験日で異常事態との記憶が重なっている。翌年大学を卒業して三商に奉職、昭和十七年まで在職。商船大、明星大、工学院大と七十五歳まで教師生活を送った。中でも教師のスタートを切った三商時代の印象が深い。山口正人君の乾杯音頭で開宴。木村一雄君から上野のれん

会の豪華タウン誌「うえの」の寄贈あり。二時、二十五年ぶり出席の小西康義君の手締めで散会。別にオーナーの依頼ではありませんが、同期会や懇親会の会場として懐石料理の「萬代」(TEL 三二五一〇五二三)を推薦致します。

出席者二十七名

飯島武敏、石川喜一郎、石丸豊多郎、岩佐一男、岩崎功、大森文吉、加島精四郎、加藤茂、神谷恭正、木村一雄、國定健一郎、小池善四郎、小島通敬、五島彪、小西康義、小谷松淳郎、佐々木博夫、田中利雄、福田猛、古川恵一、古田泰治郎、帆足誠、山口正人、山崎順三、山田慶蔵、山田澤三、荻野文雄

追記

井上速雄先生は、昭和五年東大西洋史学科を卒業して教育界に入られ、二商を経て三商へ、十期卒業時は三組担任、都立高校長歴任、昭和六十年私立大成高校長を退職。最期のときまで歴史研究と時事問題への関心が深かったとのこと。十期会の席上で何って印象に残っていることを記します。

フランス革命は政治・法律・軍事・教育・思想などを変革し現代世界を生誕させた世界史最大の事件であったにも拘わらず戦前の日本ではタブー視された。戦後になって昭和天皇が箕作元八の名著『フランス大革命史』をご愛読されていたことを知って感銘した。イスラエル・エルサレムを五度旅行してユダヤ人の農業共同体「キブツ」に一つのユートピアを見たこと。もし先生がご存命ならば、聖書時代以来の宿命的な宗教的、

投稿

三史会旧跡川越を散策

— 古暮先生の喜寿を
お祝いして —

四月七日は満開の桜日和のはずでしたが、今年はずいぶん暖春、十日以上も早咲きでした。小江戸川越も例外ではなく、何所も新緑、葉桜の風情でした。この日三史会の面々四十名はこの川越に参集し、散策を大いに楽しみました。まして顧問の古暮先生には、奥様と一緒に参加下され、御健在ぶりを披露下されたお陰で、皆意気揚々、嬉しさを隠せませんでした。

川越は江戸より北西へ十三里余、六つの宿が置かれ、水路も整備され、人も物資も盛んに往来し、江戸文化が豊富に入り繁栄しました。現在その名残りが至る所に見られる。江戸っ子も江戸を知るには川越へ；そんな気持ちが手伝って企画しました。

三史会（二十八期 伊沢宏祐会長）は二十二期～四十五期まで、兄貴格の三商史学部OB会（十七期 田中恒吉会長）は、十七期～二十期迄で構成されていますが、こ



こ数年は合同の活動が多くなりました。今度も違わず一緒に歩きました。皆さん若くして表面的には区別が不可能でした。散策の終着は蔵造り、商家街の中心に位置した由緒ある料亭山屋です。数百年間伝わる静寂な庭園と淑やかに座した着物姿の別嬪さん方に迎えられた時は、しばしタイムトンネルをくぐった気分でした。歴史家古暮先生の喜寿のお祝いには、最も相応しい会場をと思案しましたが、料理も酒もこの上ないものでした。先生の喜寿お祝いセレモニー

が始まりました。一人一人が先生のお席に寄り、花束とお祝いの言葉をお届けしました。最後に先生から奥様に、みんな貴女のお陰と感謝の花束が贈られ、大喝采の中に閉幕しました。外は暗くなってきました。

三史会事務局

二十六期 栗原

東京市営

古石場共同住宅

十期 荻野文雄

年三月、東京市営共同住宅として建築され、公営鉄筋住宅の先駆けといわれた。関東大震災、東京大空襲の惨禍にも耐え抜いた。震災のとき、永代橋が焼け隅田川を水道管を伝わって帰ってきた警察官の父は、焼野原に屹然と立つ三階建てに威容を感じたという。

私は大正十四年に生まれて昭和十五年まで三号館に住んだ。当時の下町の住居には珍しく、各戸に水洗便所、ガス台、調理台、廊下にダストシュート、屋上に洗濯場など近代設備で、各戸は厚いコンクリートで仕切られて全く騒音を感ぜなかった。

文化的なアパートとして衆目を集めた。市営の浴場、託児所、集会場、食堂、質屋などが併設されていた。震災後に建てられた五号館は和洋の生活様式を自由に選択できるハイクラス向で、吉澤校長の腹心といわれた仙波直心先生はこの住人だった。着物に下駄履き、太いステッキをつけて散歩されていたのを児童のころから記憶している。長髪の浅黒い精悍な顔、短

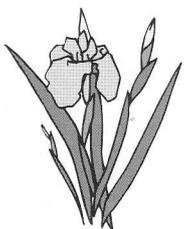
軀ながら背筋を伸ばした姿勢を思い出す。庶民が往来する街中を悠然とステッキをつけて散歩される姿は、いかにも「先生」という風姿であった。先生は昭和十三年に三商を辞職して実業界に転身された。昭和十八年、人形町での十期六組クラス会にお見えになったときは軽金属統制会総務部長の肩書きであった。

大空襲を三号館で体験された警察官の柴田苗太郎氏は、自分史に「地獄の劫火はあの世ではなくこの世にあった。昭和二十年三月九

日の夜から朝にかけて荒れ狂った火の海の中にあった。向こう側の四号館の奥さんは水に濡らした蓑を被って子供を連れて逃げたが、一丁も離れていない金比羅神社の境内で白骨となっていた。多くの人が劫火で焼け死んだ」と記している。

清田榮一先生から頂いたお手紙の中に次のような一節がある。「古石場居住であった警察官柴田さんは、養子が三商在学中で、親交がありました。文学を愛好し、円満な方でした。実は昭和二十二年二月一日、日本の労働運動がエスカレートして、共産党主導の下に、空前のゼネストが準備されましたが、マッカーサーの指令で中止されました。私は三商の教頭として、事の重大性に鑑み、非常体制の形で、その前夜、柴田さん宅に泊めて頂いて食事その他、お世話になりました。ある事情で養子が三商を退学し、その後、柴田さんとの交流は杜絶しました。」

戦前、この三階の屋上から、東京の夏の風物詩であった両国の川開きの花火を見物できたとは、夜空に彩光を放つ音がきこえたとは、今のひとには想像しがたい事ではあるまいか。高層ビルもなく、騒音もなく、夜の闇は深く情趣があった。



戦争、終戦、 世界恒久平和

十期 竹田 一郎 (静水)

筆者は江東区越中島にある現都立第三商業高等学校の旧制府立第三商業学校時代の卒業生で戦時態勢下昭和十六年十二月の三ヶ月繰上げの卒業の措置がとられてこの月二十八日に卒業した。

然もこの月十二日、日本は対米英蘭に戦線を布告し太平洋戦争が開始されたのである。

既に昭和十二年(十期生が三商に入学した年である)の七月、それも七夕の夜、中国北京溝橋での銃撃戦が起りこれが発端で日支事変が始まった。戦火は次第に拡大していき緒戦は日本に有利であったが、次第に日本に利あらず、中国大陸で膠着状態となり、戦域も印度支那半島に及びいつ果てるとも分からぬ泥沼にのめり始めた。帝国陸海空軍の命運がこの太平洋戦争の相次ぐ戦場での敗戦で昭和二十年八月十五日ポツダム宣言の受諾でやっと終戦を迎えてわが国に恒久平和が訪れたのである。

日本は戦後の新憲法第九条で国の交戦権を認めず、戦争を放棄したのである。

昭和十六年、戦時下の生活も長期化し物資も次第に窮乏しつつあったが、まだ内地に空襲も無く戦火の直接の影響はなかった。然し戦局は次第に多難となり人的、物的に窮乏化する兆候が見え始め、為に冒頭の三ヶ月繰り上げ卒業という決断が降されたのである。

でも社会の日常生活には特に支障はなかった。まだ戦時統制の指令は出ていなかった。

翌昭和十七年一月四日、筆者は「東京海上火災保険株式会社」に入社した。

言う迄もなくわが国の超一流大会社の東京海上は三菱大財閥の系列、到底筆者の如き凡庸の徒が入社出来る筈はない。寔に幸運であったという訳ではない。今でも感謝している。

天下の超一流大会社の「東京海上火災」に入社出来たのは一重に「府立第三商業」という名門校に在籍し卒業出来たからに外ならない。筆者は、幼ない頃から「学校の先生」になりたいという願望をもっていて、三商五年次の担任、清田栄一先生に昼は一流大会社に勤めて夜、教員の免許状を授与してくれる大学に行きたいと申し出ていたが、後述する。

東京海上火災では時の府立商業学校からは府立一商と府立三商の二校だけしか新入社員を採用していない。一月四日、筆者と一商出の某君(失礼だがお名前を失念したが、ハキハキして言葉も丁寧な上品な人柄だった、ああよい人物を廻して来たなど小生は直感し以後同期の桜のよしみで仲良くお付き合いした。この人、四年程勤めて退社した。)が人事部に呼ばれて採用を告げられ挨拶した。

公立学校出は一商と三商の二校が指定席だったが、私立学校出は沢山の学校があるので年ごとに学校が選択されて例年、違った学校から違った顔ぶれが入社して来たが、個性の強い然し真執な侍ばかりが揃っていた。

家柄が可成り重視されたようである。

会社の主要戦力を占める公立の大学出は「東大」閥は、東京海上では必ずしも優位に遇されず「慶応」と「一ツ橋」の出身者が重用されて累進も早く会社の重役陣もこの両大学の出身者が多かった。

人物はバラエティに富んでいて何事にも一芸に秀でている人材が登用されていたようだ。

会社そのものに名門意識があり華族や大名家出身など名門の家庭の子が多かった。

ところで筆者が入社した昭和十七年四月のこの会社に勤務していたわが第三商業の卒業生、先輩たちは誰だったかと言うと、まず四期の長谷川幸夫(敬称略、以下同じ)をはじめとして六期の染谷福三郎、宮城邦三の二名、八期の鈴木得介(剣道範士)そして九期の俊秀曰井陽一郎と高師文雄、そこへ、十期からは筆者竹田一郎。一年後、筆者のあとへ十一期から墨田区緑町の酒類販売商の倅、小谷野一夫が仲間入りした。

あと十三期、十四期から各一名入社して来たが、これらを交えた三商出身者が、社内で「三商会」を結成し、食卓を囲んだり、観劇したり一泊の旅に出たり、太平洋戦争中であつたが、青春を謳歌したものである。

九期の白井陽一郎は天下の俊才であり(深川の海苔とお茶を扱う老舗の倅)会社に勤め乍ら「一ツ橋」を受験し見事に合格してしまつた。昭和十八年の話である。上司に合格したことを打ちあげて、昼間、無論、損害査定部の業務を遂行しながらとうとう、「一ツ橋」を卒業してしまつた。今だから話せる秘話である。時の上司も太腹だった。

昭和二十一年四月、白井、高師と同期の三商九期の俊秀、高木秀卓が三商から「一ツ橋」を出て東京海上へ入社して来た。高木は累進して戦後日本経済界の重鎮となり東京海上の社長に累進した。

華族で、子爵家のおん曹子、副島種義も、戦前、海上営業部員で英語堪能、外国商社と営業の渉外折衝に当たっていた。筆者のまんなの席で事務を執り午後は出掛ける事が多く、隣の席の女性が、身の廻りの世話や会社の業務のアシスタントを勤めていた。その気品ある貴公子の姿は眩しく着衣の背広なども一流品、筆者如き下町の田舎者には程遠い存在であつた。

常に優しい言葉を掛けてくれて度々一流レストランでご馳走にあずかつた。時には観劇で何度も歌舞伎座へ誘われたし亦、剣道師範だったから会社の道場で竹刀捌きに預かつた。

伯爵家の令嬢、亀山尚子は和服姿でご出勤毎朝夕、車で送り迎え、明朗で屈託なく誰とも気兼ねなく職場は明るく輝やいた。上品な雰囲気だった。話は前後するが、昭和十九年、東京海上は「三菱海上火災」を吸収合併し「明治火災」もやがて傘下に収めた。同期の岩佐一男が筆者と同じ時期、明治火災の社員であつた。岩佐は保険業界の業務に精通していて保険全般の専門家であり実家は洋傘骨製造が家業であつたが、損害保険の代理店も経営していた。私は度々、業界の現状についてレクチャーして貰つた。彼は今でも業界の事情に詳しい。

東京海上は、戦時下の東京大空襲で家屋を焼失した契約者の保険金を片っぱしから支払い、救いの神として天下にその名声を博した。

筆者は入社した昭和十七年一月、海上営業部再保険係、昭和十八年十二月、海軍省経理部第八契約掛に出向命ぜられ軍の民間備船契約を担当し船舶、貨物全般の契約をチェックしたが、この時の英語での契約内容の翻訳が、筆者の語学力を刺激し、いい勉強になった。

海軍省では書類作成の上で、大臣官房との繋がりが出来、当時の海軍大臣、嶋田繁太郎閣下の大居室にお邪魔して直々のお言葉やご教訓を賜わり授かり物もあり感激に浸つた。このあと、昭和二十年二月一日、海上営業部へ戻つたが、二十年二月五日、明日二月六日が筆者二十才になると言う十九才最後の日、甲府東部六十三部隊に現役兵として入隊を命ぜられるのである。この日が、母と今生の別れになったのである。父は甲府の部隊まで見送りに来てくれたので二月五日の夜は東京海上甲府営業所長の斡旋で市内の宿で一泊した。五日の午後、五十三才の母竹田チセは一人息子を見送りに新宿駅ホームまで私を見送りに来てくれたが、列車が発車するサイレンが鳴つたとき、筆者の顔を見て瞬間両掌で自分の顔を蔽って泣き出したのである。筆者は母親に抱きつ

いて「お母さん有難う、屹度還ってくるからね、待っていてね」あとは言葉にならなかった。これが、この世に於ける母との今生の別れとなったのである。

凶らざりき、翌三月九日から十日未明にかけての米軍の東京下町大空襲で母親は戦災死したのである。父はこの空襲では生き延びて

(父は母とは別々に逃げたのだと言う、父は城東区の砂町の汽車会社に勤めていたから、砂町方面に土地勘があり助かったのである。)

その父、竹田正清も、家郷の新潟県妙高山麓の大鹿村、父の実兄宅へ疎開したが、空襲で病を得て七月三十一日病死した。五十八才

だった。非情な国家は、年老いた両親の一人息子を兵役に奪ったのである。かくして昭和二十年八月十九日に復員した竹田一郎は、東京に還っても親はなし、家はなし、兄弟もなし、ただ一人から戦後の

社会を歩みはじめなければならなかった。

平成七年五月十五日、筆者は妻と共に亡き両親の実家を訪ね、(母は父の出身地大鹿村の隣にある新井町の出身)父の菩提寺で亡

父母の五十年忌の法要を営んで永年の不孝を詫びてやっと蘇生したのである。

昭和二十年九月、復員した筆者は会社へ復帰して火災営業部の代理店係、次いで入寮していた西荻窪の社員寮に程近い火災部の中野事務所勤務、次に経理部に転属となった。

丸の内の東京海上社屋(海上ビル)は進駐軍に接収され、海上ビルディング管理部の勤務を希望して進駐軍に対応する会社の正規の通訳の補佐役を命ぜられ二十一年

二月から九月まで毎日、英語を喋っていたのです。今では嘘のようなホントの話、誰でも信じてくれません。平成十四年現在、英語の「エ」の字も発音出来ません。孫の英語の教科書を見ても、どうやら単語は一つ二つ分かりますがあとは駄目。

戦災と戦病死で両親を亡くした天涯孤獨の筆者を東京海上の人たちは暖かく励まして下さった。何人も先輩から夕食にも呼ばれ経済的にも援助され本当に有難く人々の情けが私の切ない心を和ませて下さった。ともすれば淋しく

なっていた筆者を立ち直して勇気づけてくれたのである。感謝した。

昭和二十一年九月には全く思いがけないことに会社の「頭脳中枢」である「企画部員」に

「企画部員」に抜擢された。司の言である。筆者はこの「抜擢」という言葉をその俣、信ずることにした。この頃、会社は丸の内を

離れて大森駅前前の白木屋ビルを買収し改装して「大森東海ビル」と改称してここに移っていた。

筆者はこの大森社屋へ入寮していた西荻窪独身寮(西荻窪駅)から通勤したのである。

企画部は会社の優秀な「頭脳中枢且つ頭脳集団」である。部長以下部員は当代稀に見る大学の俊秀ばかり。戦後の日本経済界の動向を左右したと言っても過言ではない。

部長も部長代理もそして部員も(常に六、七人、増減あり)出社せず、今日はドコソコと電話だけ、筆者一人が常に留守番。一人では留守番もこなし切れないので人事部にお願いして総務部から年輩の女性を一日おきに

事務処理の手伝いに来て貰った。筆者はこの企画部で保険業界全般(生命保険も含めて)の

オゾンリテイになった。世界の保険業界の事情に精通し外国商社の事情も辱知したりして文献も駆使出来た。会社の社内報の編集も任せられたし社員組合の機関誌「みづたま」の発行も担当

し、「企画部に竹田あり」と言われたのである。

二十二年八月、この企画部を惜しげもなく退社した。天下の「東京海上火災」をである。

筆者は三商在学中から担任の清田栄一先生に将来、学校の教員になりたい、これが生涯の希望であると申し出ていたので、卒業に当たって「青年学校教員養成所」な

ら今、すぐ入れるがそれよりも一流会社に就職して、教員免許状を取得出来る夜間大学へ進学するよ

うに」と奨められたのである。結果、会社は天下の東京海上火災、大学は明治大学専門部文科地理歴史学科へ首尾よく合格できたのである。大学は首席で卒業した。そして当時の「師範学校、中学校、高等女学校、無試験検定合格証書」を文部省から取得出来たのである。

教員になりたい一心で、容易に入社出来ない世界一流の東京海上火災を袖にしたのである。(なぜヤメルンダと周囲から叱られたりした。また東京海上をやめるなどとは惜しいことだ、取り返し聞かないぞ。いま、然し自分の信念に従う以上は将来必らず一般教員で

終らず教頭、校長を勉めなさいという励ましの言葉を頂いたのである。)有難かった。

二十二年八月三十一日退社、文部地方教官に任じ、三級に叙し十号棒を給するという辞令を文部省から頂いて翌九月一日から母校の都立第三商業高等学校の教員に就任したのである。無条件採用だった。

以後、三商、小岩高校、そして教頭として墨田区立吾嬬三中、江東区立第四砂町中、更に同深川八中として三校勤務、江東区第二大島中、同第三大島中と二校、校長

を勤めて昭和六十年三月、管理職として定年退官したのである。退職時当時荒れていた学校を鎮静し更に学校の優良管理の功に依り都

から表彰され面目を施した。こうして筆者の三十八年に及ぶ教員生活は終わった。筆者が担任した、また授業した高校及び中学校

の生徒たちは無慮、何千人にのほることか、いまユックリと反趨しながら過去を顧みている。わが人生に悔なし。教員になって良かったとしみじみ感慨に浸っている。

三商、わが母校で二十二年九月一日、恩師、今村直人校長先生、五年次の担任で当時、教頭の清田栄一先生が、筆者の着任をあなたかく迎えて下さったあの時のまなざしを筆者は終生、忘れることは出来ない。

その両先生、いまは亡し。謹んでご冥福を祈る。筆者もいまや「喜寿」。残された余生を世のため、人の為に出て来る限り尽くしたい。

貧血、入院など、いま体調不良であるが、医師の診断を受け、健康を維持してこころ静かに世の片隅で、育ち盛りの孫二人、本年四月現在、県立千葉高等学校一年生の男孫と小学校五年生の女の子の成長を見守りながら、妻と二人、穏やかに世を過ごしたい。

母校八十周年の到来するその日を待ちながら、いま空も青いし、海も青い。風も静か。

俳句・短歌 竹田 静水

春愁や月に兎の見当たらぬ
夕日落つ水平線や六阿彌陀
遠雷や肝臓痛れていませんか
古希となりて二ヶ月過ぎぬ太陽は迷うことなく吾を照らせり
大樹の森に入りて道は岷然とわれの行途をおこそかに示す



三商のおもいで
昭和三十年代……



30年四国旅行



軟式野球 38・39年と連続全国大会に出場



放送部 東京都コンクールに初優勝



新潟六日町にて



磐梯 朝日国立公園 辨天沼



32年卒業式

平成13年度同窓会収支決算書

(自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日)

収入の部

前年度繰越金	8,711,857
会費 (¥7,000×176人)	1,253,000
利息 (普通預金)	1,714
雑収入 (3学年解約利息寄付)	790
合計	<u>9,967,361</u>

支出の部

理事・評議委員会	52,701
校歌祭報	132,000
同窓会報	277,200
慶弔費	111,500
事務局運営費	120,000
協議会参加補助	94,500
通信費	24,856
次年度繰越金	9,154,604
合計	<u>9,967,361</u>

次年度繰越金内訳 普通預金残高 ¥9,154,604

監査の結果公正妥当であることを認めます。

平成14年4月25日

会計監査 鶴ヶ谷 義徳
辻井 正巳

前会長

神谷 武司氏への 追悼の辞

同窓会長 大嶽 清

神谷前会長は、平成十三年十一月脊髄狭窄、座骨、脚部等の合併症による麻痺のため、逝去されました。

前記の病状を思慮され乍ら、平成十二年に、同窓会会則の改正に着手され、その立案は理事会、評議員会等の所要機関の審議を経て成立されました。そして平成十三年五月に、自らの議長のもと諸機関の決議により、新正副会長、監事が選任され、会長を辞任されました。以上の事項にしましては、平成十三年七月十九日発行の「三商同窓会報」に掲載された通りであり

ます。
省みすれば、前会長は都築元会長よりその要職を受け継がれてより、三年半後の辞任でした。

神谷先輩は八期生の代表として、同窓会運営に長期に亘り盡力されて参りました。戦時に於いては陸軍将校として国難に当たり、戦後は平和日本確立とその持続のため鋭意努力を重ねてこられました。清廉潔白なる人となりは周知の通りであります。健やかにして後輩指導のため適任者として、期待をして居た方でした。
逝去の速報を受け、限りなき寂寥の日々でした。神谷前会長のご冥福を衷心よりお祈り申し上げ、追悼の辞といたします。